

「もったいない」から家を。

千歳市立富丘中学校3年 山内 歌乃

『この避難所は区民対象です。と言われ、地球最大規模という台風の中追い出された男性が、ビニール傘を頼りに一晩中外で過ごした。』という出来事を知っていますか。

二〇一九年十月十二日、台風十九号が東日本を中心に甚大な被害をもたらしました。その際、多くの人が自然の怖さを体感し、多くの人が避難所に避難したはずですが、避難した人は、命を守るために、自分の家より安全で頑丈な所に行きたい、避難したいと考え、そう考えたほとんどの人が「避難所」に避難していたと私は思います。そして私は、あの出来事のように避難所に「～対象」と制限をかける理由は何なのか、制限をかけた時とかけない時の差は何なのか、と疑問に思いました。

そもそもなぜ男性が追い出されたのか。その理由はただ一つ。住所がないから。その男性はホームレスで住所がなく、区民対象の避難所には受け入れてもらえなかったのです。ホームレスの男性を追い出した人に対して様々な賛否両論がありました。例えば「ホームレスは税金を払っていないから追い出されて当然だ。」や、「ホームレスの人でも避難する権利はある。」など。私はこれらの意見を聞いてどちらも正しい事を言っていると思いましたが、それと同時にみんなこの男性には住所がないという事に対して何も思わないのだろうか、と思いました。そもそも住所がないのだから避難所には避難できないのです。そこで私は「ホームレス支援ハウス」を税金で建てたらどうかと考えました。ホームレスの人は住所がないのが原因で職がないというのが大多数であると聞いた事があるので、ホームレスの人のための家を建てることで仮の住所を与え、社会復帰をさせ、ある程度稼げるようになったら家賃を払ってもらったり、労働者不足の職場で働くなど、社会にも貢献できます。またホームレスになる人の中には親の介護費をまかなえなくなり借金をした結果、住む家をなくしたという人がいると聞いたので、公立学校の児童・生徒一人当たりの負担額を減らし、その分を介護費にまわすということは出来ないでしょうか。税金は普段、私たちが使っている学校の椅子や机などにも使われているそうですが、何十年前から比べると必要な数はだいぶ減っていると思います。実際あまり使われていない椅子をよく見ます。

日本人は「もったいない」という言葉を使います。きっと多くの学校には使われていない椅子、体育用具などたくさんあります。それらを放置するのはもったいないと思います。私たち日本人は「もったいない」という言葉を知っている以上、新しく買うのではなく、地域どうし協力し、少しでも使われる税金を減らすことで、誰もが安全に暮らせる家を作れたらいい社会になると私は思います。